

事業番号	0	2	4
実施計画事業			
実施計画事業以外の事業	○		

令和元年度 事務事業評価シート

1. 事業の概要

事務事業名	生と性育み推進事業				担当部	健康福祉部					
事業期間	平成18年度 ~ 令和2年度以降				担当課	保健センター					
新基本計画 (平成26年~平成30年)	基本施策	06	展開方向	2							
予算区分	一般会計	款	04 衛生費	項	01	目	04	大	03	中	05

2. 実施状況

<目的>  
 親子を取り巻く社会環境は年々複雑化し「自分のことを好きでない」という子どももいる。そのような時代だからこそ、自分の身体や生き方を大切に、相手のことも大切にできる人づくりや、学習で得た知識を自分のこととして活用できる「生きる力」が持てるよう、親や周りの大人が子どもたちに自己肯定感を持つことができるようかわることにより、子どもが自分の存在を認め大切に、また相手も大切にできるよう、「生と性」に関する健康教育や事業を実施する。

<対象>  
 子どもとその保護者、市民

<内容・手段>  
 ・「生と性のカリキュラム」の推進(小学2年生とその保護者、中学3年生、市内高校生)  
 ・4か月児健診自己肯定感講話  
 ・出前講座「育てよう 自己肯定感」  
 ・中学生職業人体験

<30年度成果・実績>  
 ・「生と性のカリキュラム」の推進  
 小学2年生とその保護者 16校(児童1,362人 保護者1,239人)  
 中学3年生 7校(生徒1,005人)  
 高校生 4校(659人)  
 ・4か月児健診自己肯定感講話 48回(1,080人)  
 ・出前講座「育てよう 自己肯定感」 2団体(29人)  
 ・中学生職業人体験 7校(18人)

3. 総合診断

事業費	項目	単位等	H27	H28	H29	H30	R1	
			直接経費	財源	千円	2,872	1,469	1,434
	一般財源	千円						
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	計(A)	千円	2,872	1,469	1,434	1,484		
	対前年比	%	-	51.1%	97.6%	103.5%		
	(当初)予算額	千円	3,386	2,070	1,919	1,919	2,035	
人件費	正職員	人	0.2	0.2	0.2	0.2		
	正職員(平均人件費)	千円	1,497	1,497	1,497	1,497		
	その他職員	人	0	0	0	0		
	その他職員(時給×年間時間)	千円	0	0	0	0		
	計(B)	千円	1,497	1,497	1,497	1,497		
事業費合計(C=A+B)		千円	4,369	2,966	2,931	2,981		
指標	成果指標	「生と性のカリキュラム」の授業後「自分を大切にしよう」と思う中学生の割合	目標	-	-	-	-	-
		実績	-	-	-	-	-	
	活動指標	「生と性のカリキュラム」実施校数	目標	30	30	30	30	30
			実績	23	26	27	27	
		目標						
		実績						
	@事業費	受益者数(a)	人	-	-	-	-	
		受益者あたり事業費(b=C/a)	円	-	-	-	-	

<b>診断結果</b>	改善点は見られない	○	改善点が若干見られる	大いに改善すべき
	<p>&lt;事業費&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校での授業実施分の助産師講師謝礼分と親子健康手帳の印刷製本費が大半で、毎年大きな変動はありません。</li> <li>・昨年度策定した「小牧市自殺対策計画」の基本施策でもある「心の健康づくりの推進」として、あらゆる世代の市民に「命の大切さ」「自己肯定感の醸成」について保健センター保健師が推進をしています。</li> </ul> <p>&lt;指標&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生と性のカリキュラム」実施校数は年々増加してきているが、全校実施には至っていないため、小中学校へは、ほぼ実施できているものの、授業時間が取りづらい市内全ての高等学校の実施ができるよう働き掛けを行いながら実施していきます。</li> </ul>			

4. 総合評価

事業の方向性 削減額・対象	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの			
	事務事業評価による額	千円	予算区分	節	節
<b>評価結果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の養護教諭らとカリキュラムについて今後見直しの検討をしていくことと、市内全ての高等学校で実施できるよう働きかけを行い、実施できるよう推進していきます。</li> <li>・また、自己肯定感について、子どもだけでなく大人についても周知啓発していけるよう、出前講座などで働きかけを行い推進していきます。</li> </ul>				